

雪国の植物 ユキツバキ20

ユキツバキと稀に生育地が近接する種—フユイチゴ(ばら科)

石 沢 進

ユキツバキと生育地を共有する種について関心を持ち、調査を進めている。生育地を共有する場合でも、ユキツバキの分布域と同じ地域に生育して分布域を共有する種と同所的に生育して共存する種とに大別される。また、ユキツバキの群落の下層で生育する種、ユキツバキの群落に近接するものの共存すると判断するには困難な種もあり、分布域を共有するか、共存するか両者を正確に区別できないこともある。系統立ててまとめの段階には至っていないが、ユキツバキと他の種の生育状況を詳しく知りたいと思っている。ここでは、ユキツバキとフユイチゴとの関係について観察した結果を記録するが、情報が少ないので、フユイチゴとの関係にお気付きのことがあったらご指摘頂きたいと思っている。

フユイチゴは、常緑のつる性のバラ科の植物であり、県内の分布は海拔ほぼ100m以下の低所に限られている(分布図参照)。個々の生育地をすべて観察したわけではないが、ユキツバキと接して分布しているが、共存していることは

少ないようである。常緑のユキツバキが上層を占めるところでは、日陰になり光合成が抑制されることで、下層に生育していない結果とも解釈される。

北蒲原郡黒川村鳥坂山の山麓にフユイチゴが生育し、ユキツバキの群落近くまでつるが這っているが、下層にはみられない。五頭連峰の山裾にもフユイチゴはよくみられるが、ユキツバキ群落の下に生育していない。フユイチゴは阿賀野川沿いに東蒲原郡鹿瀬町の角神温泉奥まで生育しているが、近くのユキツバキの群落にはみられない。

また、フユイチゴの北限は、村上市耕雲寺であるが、生育地はスギ植林下で、ユキツバキとは共存していない。ただし、県南西部にはフユイチゴがやや広い範囲で分布しているので、共存している可能性があるが、まだ確認していない。

これまでの観察では、フユイチゴはユキツバキの群落に接して生育するが共存することは稀な種と位置づけられると考えている。

県内には、フユイチゴによく似たミヤマフユイチゴが自生している。萼裂片や茎に生える毛がフユイチゴほど目立たないことで区別されている。分布の北限が新発田市荒川の剣竜峡であり、それより南では山裾の低海拔地に稀に生えている。また、県の南西部の糸魚川市や西頸城郡の青海町などでは、やや多く分布している。ミヤマフユイチゴの分布域の広さは、フユイチゴよりも狭く、ユキツバキと分布域を共有することはあっても、共存するところを確認していない。



写真 ユキツバキの群落に近接して生育するフユイチゴ 北蒲原郡黒川村胎内観音堂近く [1999 11 30]

